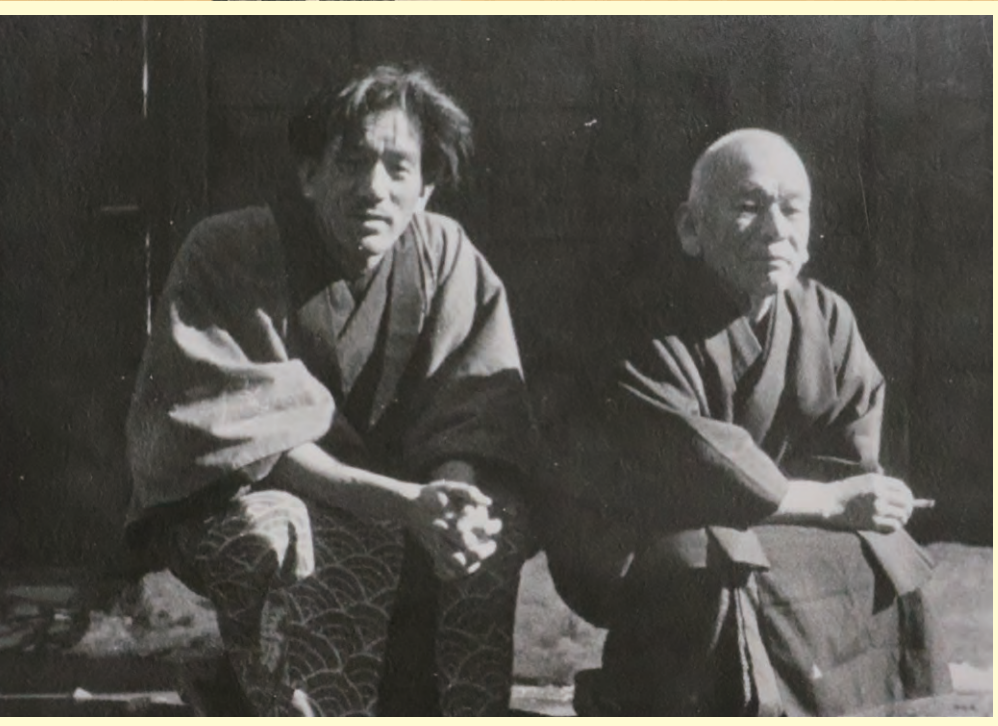


企画展

# 松阪商人と小津安二郎

～巨匠のルーツをたどる～



小津安二郎と父・寅之助 深川の自宅の蔵の前にて 提供：松竹株式会社



自 令和7年12月6日 土

至 令和8年3月1日 日



旧制宇治山田中学校入学の頃の小津安二郎  
1916年 提供：オフィス小津



## 松阪市立歴史民俗資料館

(2階 小津安二郎松阪記念館)



三重県松阪市殿町1539番地(松坂城跡内)

TEL&FAX 0598-23-2381

入館料 一般/150円・6歳以上18歳以下/70円

休館日 月曜日(祝日を除く)、祝日の翌平日、年末年始(12/29～1/3)

開館時間 9:00～16:00

アクセス

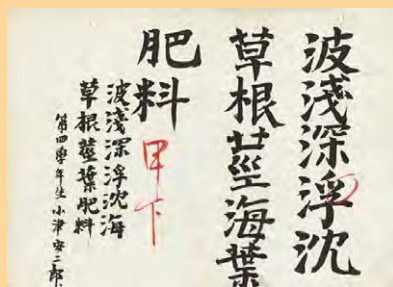
電車：近鉄/JR 松阪駅下車徒歩約15分

お車：松阪ICから約10分 市民病院前の松阪市駐車場(無料)をご利用ください。

※藍の縞模様は、伝統工芸品の「松阪木綿」柄です。



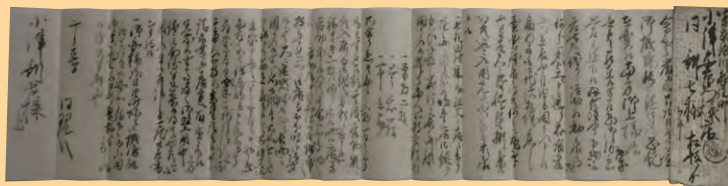
小津安二郎の祖父・新七が収集した錦絵（個人蔵）



松阪第二尋常小学校 4 年生の時の習字



学校生活を家族に報告する  
小津安二郎の手紙（個人蔵）



湯浅屋の手代（従業員）から松阪への手紙（個人蔵）

## ギャラリートーク

場所 松阪市立歴史民俗資料館 1 階

### 「小津安二郎のこのみ」

令和7年12月6日 土 13:30-14:15

講師 小津亜紀子さん（小津安二郎の姪）

内容 小津安二郎の趣味や好み、人間関係が、小津映画の内容でどのようにあらわれたか、お話しいただきます。

映画監督・小津安二郎（1903～1963）は、『東京物語』などの名作で世界的に知られ、ローアングルに代表される独特の撮影方法で家族の日常を丹念に描き続けました。その作品は没後 60 年以上が経過した現在も、文化や世代の垣根を越えて親しまれています。

本展では、小津安二郎が松阪商人の家系に生まれたことに注目し、そのルーツや人生を、商人文化を軸に掘り下げます。

小津安二郎は、松阪出身の父・寅之助と津出身の母・あさゑの次男として東京深川に生まれ、9 歳のときに松阪に転居し、青春時代を過ごしました。その後、20 歳を迎える年に再び深川に戻り、松竹蒲田撮影所に入社しています。そのような生い立ちや、小津の趣味、教養がどのように育まれたかを知るには、江戸でも指折りの干鰯問屋「湯浅屋」を経営した松阪商人・小津与右衛門家の分家である小津新七家に生まれたことが欠かせません。

小津家の松阪や深川での生活模様と、小津新七家が代々支配人を務めた「湯浅屋」の商売についての資料や松阪商人としての小津家の文化背景から、小津作品と人物像を紹介します。



無料  
（入館料必要）

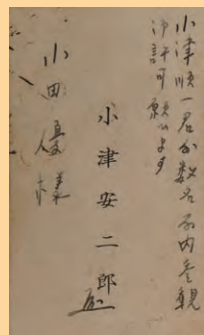
定員 20 名  
（申込不要）

### 「小津家の松阪での生活模様」

令和8年2月14日 土 13:30-14:15

講師 井上孝榮さん（三重郷土会評議員）

内容 史料解説を通じて明らかになった小津家の松阪での人付き合いや生活模様を、お話しいただきます。



親戚の撮影所見学の許可  
願いを記した名刺



関東大震災後に小津家が避難した  
鹿嶋家から祖父・新七にあてた手紙



家紋の剣片喰をあしらった門幕（個人蔵）



松阪市立歴史民俗資料館  
（2 階 小津安二郎松阪記念館）

〒515-0073 三重県松阪市殿町1539 TEL&FAX 0598-23-2381

主催：松阪市

協力：オフィス小津、松竹 株式会社、（公財）江東区文化コミュニティ財団 古石場文化センター